



るらる



2016年
2月
No.818

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp
■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教「大きな淵を越える」

ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校 鈴木浩 牧師

「あゝ金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日せいたくは遊び暮らしていた。この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、その食卓から落ちる物を腹を満たしたものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。そして、金持ちが陰府でさいなまねながら目を上げると、宴席でアブラハムとそばにいるラザロがはるかかなたに見えた。そこで、大声で言った『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもたえ苦しんでいます。』」

しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きていて間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもたえ苦しむのだ。それはかりか、わたしたちとお前たちの間には大きな淵があつて、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできない、そこからわたしたちの方に越えて来ることもできない。』金持ちは言った。『父よ、ではお願いします。わたしのお前の家にラザロを遣わしてください。わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることはないように、よく言い聞かせてください。』しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』金持ちは言った。『いえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からたれかが兄弟のところに行つてやれば、悔い改めるでしょう。』アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があつても、その言つことを聞き入れはしないだろう。』(ルカによる福音書16:19-31)

今から40年以上前のことだが、わたしは1冊の小説を読んでいた。ギリシャの作家・詩人であるニコス・カザンツァキスが書き、英語に翻訳されていた『キリストの最後の試練』(The Last Temptation of Christ)という小説である。かなり分厚い。ペーパーバックだったが、物語に引き込まれて一気に読んだ。きわどい描写がいくつもあつて、カザンツァキスがギリシャ正教会を



The Parable of Lazarus and the Rich Man, 1618/1628, Domenico Fetti, Samuel H. Kress Collection

破門されたのも理解できるような気がしたのだが、その中に忘れられない場面があつて、その場面に押されるようにして神学校の願書を取り寄せた。

それは、イエスが「金持ちとラザロ」の話を書き、弟子たちについている場面であつた。イエスは弟子たちの前でこの話をして

いるのだが、「アブラハムは言うた。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があつても、その言つことを聞き入れはしないだろう。』」

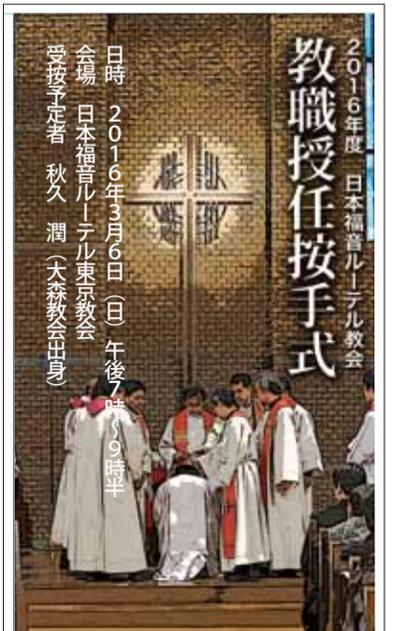
とこの話を締めくくつた。それが締めくくつた弟子たちは思ったし、そこで語られていた警告も理解することができた。弟子たちは思つてきたところ、イエスは、この話にはまだ続きがあるのだという雰囲気、弟子たちを見回し、イエスの目がファイリポに注がれる。そしてイエスはこう言う。『ファイリポ、ファイリポ、お前がラザロだ。お前がラザロならさあどうする。ファイリポは動転し、どう言つていいのかわからずにドギマギするばかりだ。すると、イエスはさらに「どうしたファイリポ、どうしたんだ。お前がラザロだ。お前がラザロなら、さあどうする」とファイリポに迫る。

イエスに迫られたファイリポは蚊の鳴くような声で、「主よ、もしわたしがラザロなら、陰府にまで降りていって、指先を水に浸し、あの方の舌を冷やしてやりたいと思います」と語り、更に「わたしも食卓から落ちたあの方のパン屑をいただきますから」と続ける。すると、それを聞いたイエスは満面の笑みを浮かべ、「よく言つたファイリポ。よく言つた。お前は神の国から遠くない。アブラハムにはできないが、神におできにならないことはない」と答える。あの金持ちにも救いの道が開かれた。ラザロはイエスの人なのだ。



通牒」のように響く。物語そのものもそこで終わっている。しかし、他のたとえ話と違ってこのたとえ話は異例だ。神が王とか主人の姿で現れて語る他のたとえ話と違って、最初から最後まで、語るのにはアブラハムという一人物である。登場人物がこのように具体的に特定されるたとえ話は、多分、これだけだ。つまり、この物語には神が出てきていないのだ。何らかの意味でアブラハムが神の代理のような役をしていて、それこそ「最後通牒」のように響くアブラハムの言葉も、言つてみれば「最後から一歩手前の神の言葉」(スイスの神学者カール・バルト)なのだ。「最後から一歩手前の神の言葉」それは「律法」だ。このたとえ話は、「神の最後の言葉(福音)が語られる余地を残した話なのだ。わたしはそう思った。福音の神髄に少しだけ触れた気がした。それから40数年、いつの間にか定年退職の時期になつた。病弱だったから長生きできないと思ひ込んでいたが、いつの間にか主イエスの没年(30代前半)を越え、ボンツァーの没年(39歳)を越え、愛するトマス・アクィナスの没年(49歳)を越え、ルターの没年(62歳)さえ越えた。この間、わたしなりに「福音とは何かの説明を語る機会を与えてくださった日本福音ルーテル教会には、いい知れない感謝の思いを持っている。感謝！」

わたしはこの小説のこの場面にいい知れない衝撃を受けた。そしてこれこそ「福音」だと思つた。わたしはいつしか泣き出していた。「言は肉となり、わたしたちの間に宿つた(ヨハネ1:14)というヨハネの証しは、このことなのだと思つた。イエスは神の世界と人間の世界の間の「越えることのできない大きな淵」を越えて来てくださったのだ。ラザロはイエスだ。アブラハムの言葉は「最後



2016年度 日本福音ルーテル教会 教職授任按手式

宗教改革500年に向けて

ルターの意義を

改めて考える(46)

ルター研究所所長

鈴木浩

人間の考える「義」(正義)と「神の義」との違いは、「ぶどう園の労働者のたとえ」(マタイ20:1以下)に示されている。とアウグスティヌスは、ペラギウス主義者との論争で語つた。

「ぶどう園で働く労働者を雇うために、主人は「夜明け前」に出かけ、次には「9時ごろ」、次いで「12時ごろ」、最後に「5時ごろ」に出かけて労働者を雇う。夜明け前から働いた人と、仕事が終わりに近くになる5時ごろから働いた人では、労働時間

の大きな差がある。ところが、賃金を支払う時になると、全員が1デナリオンの賃金で、それも最も少しか働かなかつた人から支払いが行われる。夜明け前から働いた人は、主人に抗議するが、聞き入れられない。

人間の正義からすれば、これは明らかに不正で、「同一労働同一賃金」を定める日本の労働基準法では、明らかに「不当労働行為」に該当する。

ところが、これが「神の正義」だとアウグスティヌスは指摘する。神の正義を人間の判断基準で判断してはならない、というのである。これがルターの「神の前」という判断基準と「人々の前」という判断基準の峻別に繋がっている。



東日本大震災 5年記念礼拝

「震災から5年、これからの歩み」

日時 2016年3月11日(金) 14:00~15:00

会場 日本福音ルーテル東京教会
説教 伊藤文雄牧師
(日本福音ルーテル教会元JLER派遣牧師)
奏楽 安藤政泰牧師
(日本ルーテル教団東日本大震災支援対策責任者)



議長室から

寒い時節になりました。しかし日増しに日照時間が延び、太陽の光も少しずつですが力強くなってきました。「春遠からじ」と感じ始める月です。

春の到来は教会にとつては、イースターを迎えることを意味しています。今年3月末にはイースターを迎える

早蕨幼稚園 新園舎完成報告

関 満能(水俣教会)

「岩走る 垂水の上の 早蕨の 萌出する春に なりにけるかも」(万葉集 巻8より)。この一首は、早蕨幼稚園の名前の由来と言われているものです。岩の上を激しく流れる滝のほとりで蕨が芽を出す春を詠んだものです。

早蕨幼稚園の新園舎は、2015年12月7日に完成しました。それは、前の園舎が使用できな

ための備えの時と言えるでしょう。教会の暦で言えば四旬節、主の十字架を覚える時をこれからしばらく過ごすことになり

四旬節に40日を設けることにはもちろん意味があります。モーセの荒野

十字架の声

の40年、主イエスが悪魔から誘惑を受けられた40日などにちなんでいます。40という「長い期間」にも意味があるのです。

何ごとにも長い時間を要することがあります。自然界の実りを得るには

早蕨幼稚園は、来年度から幼保連携型認定こども園の認可を受けて、「さわらびこども園」として新たな出発をする予定です。創立86年という歴史の流れを経て、「早蕨」という名に相応しく新しい歩みを始めます。

さて、新園舎で初めて行われたことは、12月5日のクリスマス会でした。クリスマスから新園舎での歩みが始まったことは、何か意味があるような気がします。クリス

春から秋までの長い月日を持たなければなりませんし、人の成長もそうです。信仰の実りとなればなおさらです。実りあるイースターを迎えるためには、40日という長い期間が必要なのです。

できることは牧師にとつて恵まれたことのひとつですが、説教準備に行き詰まり、礼拝堂に静かに座り込むことがあります。神様に助けを求めながら十字架をじっと見つめていると、自ずと道が開かれるという体験を繰り返

総会議長 立山忠浩

いを傾けること、これがこの期間に、何にも増して大切なことです。聖書に記された主の十字架の出来事を改めて読み直し、そして十字架をしっかりと見つめるのです。いつでも礼拝堂で祈り、黙想

しているのはきつと私だけでないでしょう。痛みに耐える主の声や慈しみに満ちた赦しと励ましの声が聞こえて来るような気がするのです。

それだけではありませぬ。人々の悲しみ、病気を祈りいただきます。それを幾多の声を聞いたとしても、私たちに出来ることは限られている。でも、出来ることの一歩を踏み出すことはとても大切です、それも十字架の声を聞くことから始まるのです。

実り多い四旬節の日々をお祈りいたします。

子どもたちは、新しい園舎と新しい遊具で遊び、楽しい日々を過ごしています。子どもたちを保育するに相応しい器が神様から与えられました。そして、この器が子どもたちを愛し、育んで

くださる神様の恵みで満たされることを祈るものです。幼稚園の子どもたちが大人になる頃には世界や日本がどのような状況になっているのか不安を覚えますが、神様が共におられることを伝える、こどもたちと共に歩んでいきたいと思

くくださる神様の恵みで満たされることを祈るものです。幼稚園の子どもたちが大人になる頃には世界や日本がどのような状況になっているのか不安を覚えますが、神様が共におられることを伝える、こどもたちと共に歩んでいきたいと思

何度か試練が訪れた。認定こども園化に伴う牧師館移築、工事費高騰による予算不足と仕様変更、鉄骨手配の難航など、予期しない出来事が起こった。しかし、すべてを神様に委ねることで支えられ、導かれ、計画した工期で献堂することができた。設計士の柘植健志さん、施工の宮川建設株式会社に感謝している。

早速、新会堂で初のクリスマスを迎えた。降誕祭でピアノ聖別式、祝会降誕祭前夜に特別集会「献堂記念コンサート&クリスマスイヴ礼拝」を開催した。

献堂の時を迎えて

鈴木英夫(挙母教会)

日本福音ルーテル挙母教会は会堂・牧師館の建築を終え、12月12日に献堂式を挙行了した。説教を立山忠浩総会議長、聖別を三浦知夫建築委員長が担当してくださった。

幼稚園卒園生によるヴァイオリンとピアノの演奏で新会堂での初コンサートとなった。会堂が良い演奏空間であることが確認された。百数十名の方々と共に、献堂の喜びとイエス様御降誕の恵みを覚えることができた。

「種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は、束ねた穂を背負い、喜びの歌を歌いながら帰ってくる。」(詩編126:6)

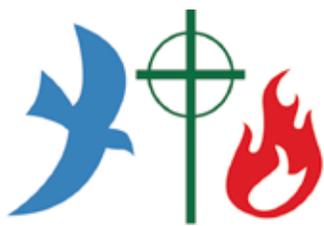
今後は宣教70周年に向けて、「挙母教会宣教5カ年計画2015」を着実に実施してゆく必要がある。3階から1階に移された会堂をいかに有機的に用いて行くか、幼稚園との「ハイブリッド(複合的)」な関係をどう

う強めてゆくかが最大のテーマである。何より近隣の関わりが大切となる。引き続き「福音の種蒔き」は続く。教会と幼稚園が共に宣教の道を歩みたい。

挙母教会 FAX番号並びにメールアドレス変更
FAX番号
0565(41)3750
メールアドレス
jclc-kor@kchbiglobe.jp



礼拝式文の改定



②式文の規範性について

式文委員 石居基夫

昨年は、1年を通じてそれぞれの教区、教会で私たちルーテル教会の礼拝について学び、考える時が与えられました。礼拝式文の改定準備が進む中、あらためて礼拝、そして式文を用いるということについて、理解を深めていただけたのではないかと思います。

日本福音ルーテル教会では、礼拝に式文を用いています。式文という形式に縛られた堅苦しさや不自由さ、あるいは、信仰の形骸化を思われることもあるのかもしれない。しかし、それ以上に、式文を用いることによって、私たちはキリスト教会の二千年に及ぶ長い信仰の伝統に連なる恵みを感じたい。聖書のことばや教会の中で大切にされてきた賛美や祈りのことばが式文に取り入れられているので、

私たちはそれを唱えることで、自然にその伝統に包まれ、信仰も育まれていくのです。(ルーテルらしさは、式文によってこそ培われる！)

もちろん、式文は、信仰の継承だけが目的ではありません。現代の日本、そして、それぞれの地域で信仰を生きる私たちの中に、そしてこれから教会に招かれる人々のために、神様が礼拝において働いてくださるわけですから、ルターは、聖書だけではなく礼拝そのものにおいて、そこに集められる人々の生きたことばによって福音が味わわれるようであればならないと、当時ラテン語でしか行われていなかった礼拝をドイツ語であすかせるように準備しました。そして、自らも作った礼拝式が唯一絶対の形なのではなく、それぞれの地域で教会がより福音的な礼拝にあずかるようにと、定まった一つの礼拝形式を強制することはなかったのです。

ですから、式文は全国のどこにおいても全く同じ画一化した礼拝を行なうように強制するためのものではありません。礼拝は、神のみ業が会衆の中で具体的に働いていく

ために、それぞれの時と所、礼拝の大きさ、そこに集まる人々の特徴、また礼拝そのものの持つテーマや性格によって工夫されてよいのです。

歌われるキリエゴロリアなどは賛美歌の中から別のものが用いられてもいいし、歌わずに唱えられることもあり得ます。礼拝の基本的な考え方をもとにして、アレンジを加えることもできるのです。

もちろん、全国それぞれの教会においても一つの日本福音ルーテル教会として、信仰の一致をあらわす礼拝式を実現するという意味で、全体で礼拝式文について学び、考え、採択し、それによって私たちの礼拝がそれぞれに整えられることは大切なことです。

ですから、式文の主要なことばについて、独自に変更を加えることは、教会の一致を見失わせる危険性があるので、神学的な理解と牧会的な配慮をもった手続きが必要になるでしょう。

いずれにしても、私たちの教会の礼拝を福音宣教に仕えるよう整える責任に共にあずかり、礼拝を豊かに味わえるように学びつつ、取り組んでいただければと思うのです。



④主は真の人で、神

ルカ18章31〜43節

この福音書箇所は古くからの聖日日課として顕現節と四旬節の間の受難前節、2月頃の主日に読まれた(現在の教会暦では、C年の今年は四旬節第2主日の日課である)。その福音書日課のルターの説教(私訳近刊の予定)も残っているし、バッハのカンタータもいくつかある。

この日課はイエスによる過ごすという選択をしました。

死と復活の3度目の予告の段落と、目の不自由な人のいやしの段落からなっていて、説教者しばしば困惑させる。どちらか一つの段落だけを選んで説教する場合も少なくあるまい。しかし古くから用いられてきた日課の指し示すところは、二つの段落をはっきり見通して、そこに貫かれている福音のメッセージである。

ルターの説教の一つにはその線がはっきり示されている。イエスの3度にわたる受難予告にもかかわらず、12人の弟子たちにはその意味が隠されていて、なにも分からないのである。しかし道端の目の不自由な人には、前を通り過ぎるイエスがどのような方かがなにほど分かった。

イエスご自身はそれを見て、彼を癒されるのであり、彼もイエスに従う。イエスに癒された人がそのままイエスに従うのはこの場合だけである。この明らかなコントラストが福音として明白に語られねばならない。

この日課の主日のためにバッハが作曲したカンタータ127「主イエス・キリストは真の人で神」

を私はよく聴く。一方ではイエスの受難予告に対する弟子たちの12通りの疑いやためらいが低音部で密やかに演奏される。他方ではイエスのいやしを信じ、それを得た目の不自由な人の喜びが音楽的に表現される。こうして「真の人」でありながらまた「真の神」であるキリストが指し示されるのである。

C年に登場するこの日課、説教者もその聴き手である会衆も、この段落の福音から「真の人であって、真の神」であるキリストへの注目を迫られるのである。



「まつもと子ども留守」の働き

プロジェクト3・11

企画委員 谷口和恵

松本市郊外に里山に囲まれた四賀地区がありま

す。そこに福島から自主避難してきた中学生の女子6人が常駐スタッフと共に生活している寮があります。多感な年頃の子どもたちが親元を離れ、放射線障害の心配の少ない安全な場所で学校生活

を過ごすという選択をしました。東日本大震災と原子力発電所事故の発生から5年近い歳月を経た現在も、福島では育ち盛りの子どもたちが制約の多い暮らしを余儀なくされ、精神的にも苦しい思いをしているのが現状です。

この「まつもと子ども留守」の運営をしているのは、同じく福島から自主避難してきた方々です。2013年4月より1年間の準備期間を経て、翌年4月よりスタートさせました。私は運営スタッフと知り合ったことをきっかけに、スター

ト直前より時折キッチンボランティアとしてお邪魔するようになりました。スタッフはご自分たちも震災で生活が激変し大変な中、「当事者が行動しないと、何も変わっていかない。この何年か本当に悔しい思いをしてきた。その悔しさが原動力になってはいるけれど、1人でも多くの子どもたちの安全な生活をサポートしたい。この地で沢山の人が出会い、胸中を察するとかける言葉が見つかりません。私達にできる事は何なのでしょ

うか?寄り添い続ける思いを伝えることから始めたと思います。

●「まつもと子ども留守」のサイト <http://www.kodomo-yugaku-matsumoto.net/>

※プロジェクト3・11では、東日本大震災のためにご苦労されている方々に心を寄せていくための支援を募っています。詳細は東教区(担当・小泉社会部長)へ。



2015年度「連帯献金」報告

2015年度の「連帯献金」は各個教会・団体及び教会員・教会関係者の方々から、8,340,215円の献金を、それぞれの宣教・奉仕の活動のために捧げていただきました、感謝して報告いたします。(敬称また複数回のご献金については、省略させていただきます。)

■ブラジル伝道 821,497円

大岡山教会、帯広教会十勝豆会計、京都教会、熊本地区宣教会議、小石川教会バザー委員会、小石川教会婦人会、神戸東教会、小山茂、塩原久、下関教会、女性会連盟、高橋、都南教会教会学校、なごや希望教会今池礼拝所、博多教会バザー委員会、東教区女性会、東教区総会、古川文江、保谷教会、保谷教会女性会、恵み野教会、めばえ幼稚園、ルーテル学院中学・高校

■喜望の家 2,843,835円

市ヶ谷教会、唐津教会、関口佳子、高橋、田園調布幼稚園、博多教会バザー委員会、函館教会、ブラウンシュヴァイク領邦教会

■メコンミッション支援(カンボジア)21,000円

高橋、博多教会バザー委員会、日吉教会

■ネパール地震被災者救援 3,604,106円

阿久根教会、厚狭教会、板橋教会、市川教会、市ヶ谷教会、牛丸禮子、宇部教会、大分教会、大江教会、大牟田教会、大森教会、岡崎教会、小城ルーテルこども園、小鹿教会、岡山教会、小田原教会、帯広教会、蒲田教会、蒲田幼稚園、唐津教会、刈谷教会、岐阜教会、京都教会、久留米教会、神水教会、恵泉幼稚園、健軍教会、健軍教会女性会、健軍教会壮年会、甲府教会、小倉教会、小山茂、挙母教会、神戸教会、神戸東教会、札幌教会、シオン教会防府礼拝所、シオン教会柳井礼拝所、清水教会、下関教会、修学院教会、女性会連盟特別献金、女性会連盟総大会、新霊山教会、諏訪教会、聖パウロ教会、聖ペテロ教会、高橋、滝本保子、知多教会、千葉教会、津田沼教会、田園調布教会・幼稚園、東京池袋教会、東京教会、都南教会、都南教会学校、豊中教会、なごや希望教会、名古屋めぐみ教会、西中国宣教協議会、西日本福音ルーテル大田教会、西宮教会、日本福音ルーテル社団、仁摩福音ルーテル教会、直方教会、博多教会、箱崎教会、箱崎教会学校、函館教会、八王子教会、浜名教会、浜松教会、原尤子、東教区、一粒の麦、平島信子、広島教会、日吉教会、福岡西教会、藤が丘教会、藤田光江、二日市教会、復活教会、別府教会、保谷教会、本郷教会、松本教会、松本大策、三鷹教会、水俣教会、三原教会、宮崎教会、むさしの教会、室園教会、恵み野教会、八代教会、大和友子、大和洋一、湯河原教会、匿名

■世界宣教(無指定) 1,049,777円

青山善彦、大岡山教会、大垣教会、帯広教会、小石川教会婦人会、挙母幼稚園、高橋、東京池袋教会、日本福音ルーテル社団、博多教会バザー委員会、箱崎教会、箱崎教会ゴスペルグループチャリティコンサート、箱崎教会らぶび愛と平和のコンサート、一粒の麦、榊田智子、水上利正、めばえ幼稚園、ルーテル学院中学・高校、匿名

今年度も、社会・世界における福音の宣教、奉仕、災害・飢饉に苦しむ方々に連帯したいと願い祈ります。「連帯献金」を捧げてくださる場合には、それぞれの献金目的[ブラジル伝道][喜望の家][メコンミッション][世界宣教]を郵便振替用紙に明記して、以下の口座に送金くださるようお願いいたします。

郵便振替 00190-7-71734 名義(宗)日本福音ルーテル教会

ネービー宣教師 91歳で召天 ひたすら伝道、一途に神学教育

江藤直純(ルーテル学院大学)

懐かしい、そしてお世話になった先生がまた話になった。91歳の伝道一筋の1人地上の生を走り終えて、天に凱旋された。



写真 Danish American Archive and Library

年、25歳の若さで来日。翌年、日本語の研修の後に遣わされたのは九州、久留米地方。その働きは目覚ましい。久留米教会を拠点に北は鳥栖、二日市、甘木、南は柳川、大牟田、東には田主丸、吉井、千足。機動力を駆って10年間開拓伝道に邁進。松崎保育園も設立。人呼んで「ネービー・キングダム」。

その後、ニューヨークのユニオン神学校で旧約聖書の博士号を取得、鷺宮と三鷹で牧師養成に当たられた。1年次の旧約緒論で絞られたのが懐かしく思い出される。学問的な厳密さと宣教への意欲

が一つとなった授業だったと思う。子どもさんたちを育て上げた。北海道・帯広の開拓伝道に赴任。どこまでも伝道者魂に生きた方だった。邦人牧師にあとを託すと、乞われて再び三鷹のルーテル学院大学・神学校で旧約を講じた。1986年まで奉仕された。

現在もそのチャペルにある、見る人を圧倒する「派遣」と題する巨大なレリーフは、ネービー先生が日本を去るときに、友人で札幌にいた宣教師・彫刻家ルドルフ・カイテ

ンに制作を依頼し、寄付していかれたものだ。先生の生涯をかけた福音宣教(伝道も奉仕も)の熱情とヴィジョンが、静かに伝わって来る。

先生はご自宅でウサギやニトリ、山羊を飼われ、神学生たちにも質素無駄のない食生活を身をもって勧められた。引退後も「世界にパンを」という運動に協力しておられたと聞く。ご伴侶のムリエルさんもメソジストの宣教師だった方。おしどり宣教師だった。感謝の一言しかない。

ルーテルアワー biblestudy.jp

「ルーテルアワー」のサイト
てあなたの部屋より

②「お帰り」 伊藤早奈

「彼はそこをたち父親のもとに行つた。ところが、また遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。(ルカ15:20-21)

天の神様、季節は少しずつ春に向かつて変わつて来ています。砂も地球のかけらと言葉が心に響きます。私たちは日常の様々なことに悩ん

たり、悲しんだり、喜んだりします。その一つ一つは、命が与えられている今があるからこそ与えられる感情です。春を迎えようとしている木々の命溢れる姿や砂の一粒一粒の命を与えてくださる神様に心を向けて一瞬一瞬を歩んでいきますように。この祈りを主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン

「お帰り」と言われる時、あなたはどんな気持ちになるでしょうか? ホッと安心したり、私なんかを待っていてくれたんだ! ありがとう! と思うたり、当たり前のことと思え

たり。「お帰り」と言われる場所は、あなたを待っていてくれる存在のあるところですよ。そして、私たちは待っていてくれるから、帰ることが出来ます。家にお母さんが待っているから、家には子どもが待っているからというように。そして、待っているほうも帰って来ることを信じています。

神様も同じです。あなたを待っています。何かをしでかしたから、その罪を償ってからじゃないと帰って来るななどと、神様は条件をつけません。 どういう生き方をしているか、どのような状態にあって、あなたが神様を思い起こしたのなら、それは神様があなたを信じて待っていてくださることなのだと思えます。あなたのことは神様ももともとよくご存知なのです。自分で自分自身さえも信じられない、辛く悲しい、どうしようもない時さえ、神様はあなたを信じておられます。

私たちに何が出来るでしょうか。何もできなくていいのです。神様があなたを通して証しされます。あなたは神様から信じられています。あなたは何度でも神様の元へ帰ることが許されています。神様はいつでも「お帰り」と言っていてあなたを抱きしめてくださいます。